

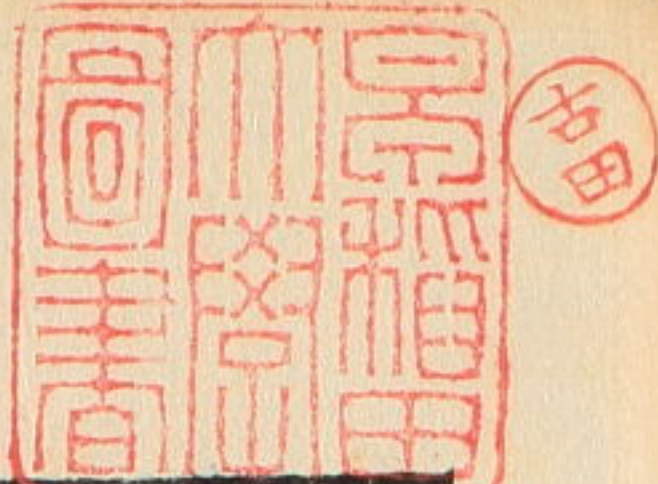


新加坡一代誌卷四

四

波13

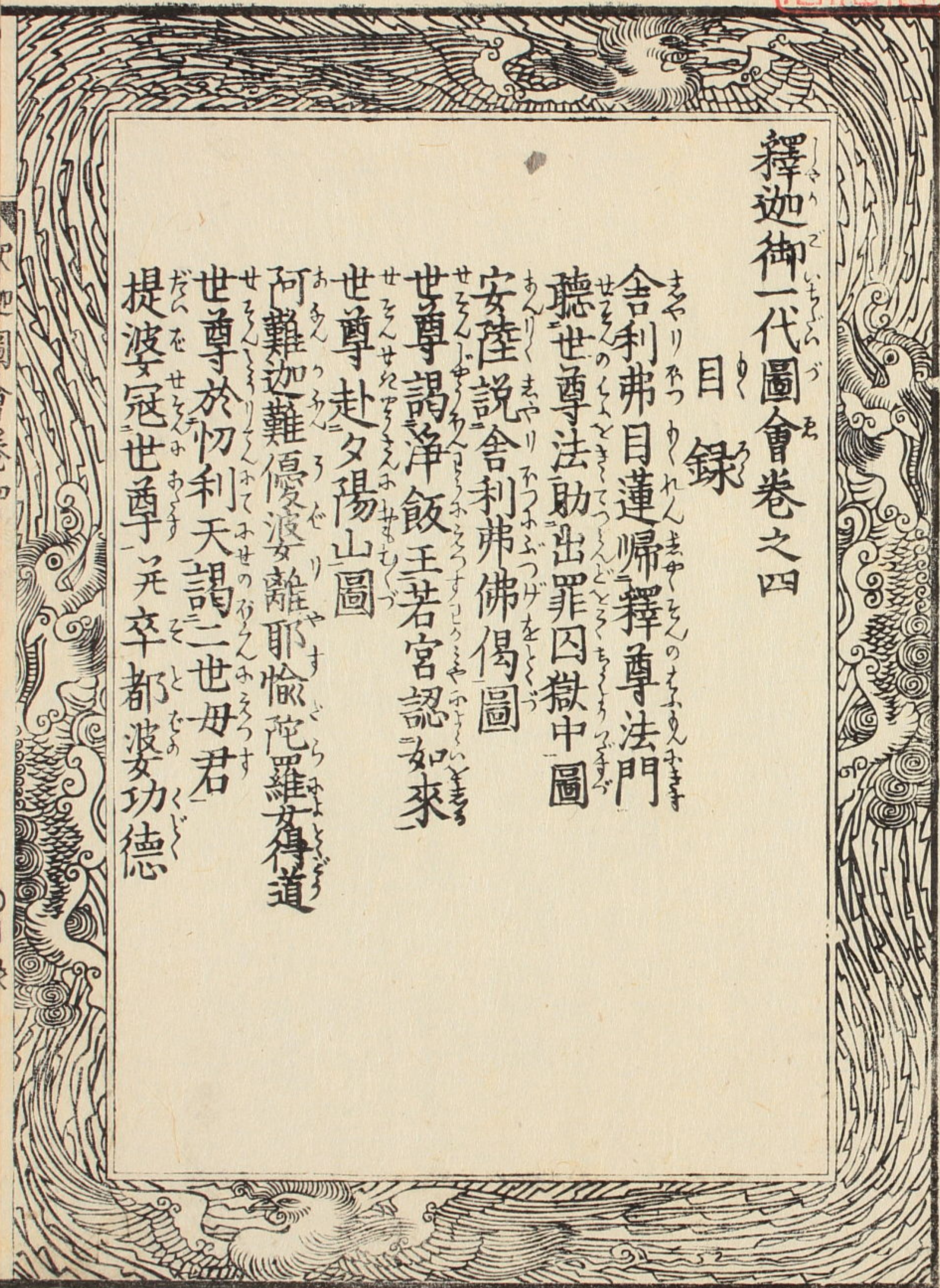




釋迦御一代圖會卷之四

目錄

舍利弗目蓮歸釋尊法門
 聽世尊法助出罪囚獄中圖
 安陸說舍利弗佛偈圖
 世尊謁淨飯王若宮認如來
 世尊赴夕陽山圖
 阿難迦難優婆塞離耶憐陀羅女得道
 世尊於忉利天謁二世母君
 提婆冠世尊并卒都波女功德



世尊大神通懲魔軍圖

提婆勸謀叛斛飯王

世尊使難陀羅睺羅見三冥途

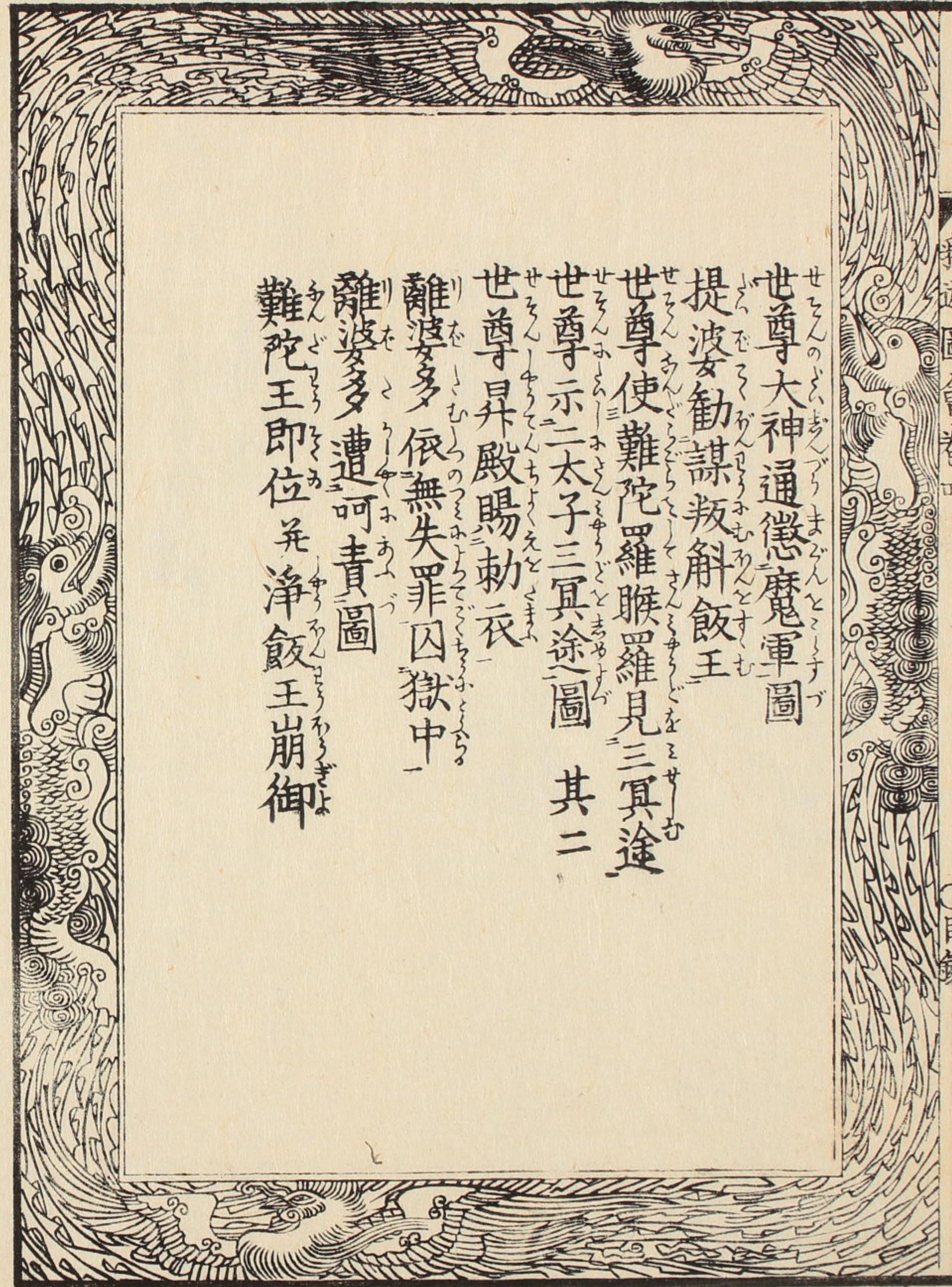
世尊示二太子三冥途圖 其二

世尊昇殿賜勅衣

離婆多依無失罪囚獄中

離婆多遭呵責圖

難陀王即位并淨飯王崩御



釋迦御一代圖會卷之四

舍利弗目連飯世尊法門

浪華好荅堂野亭考選

摩竭國之三加葉世尊の徒弟となりて僧となりて。大偈國の主頻婆娑女王より
 大系發た彼三加葉ハ皆法術あり就中大加葉ハ神通廣大あり朕が師不
 る不悉く釈伽の徒弟となりて淨飯皇子乃德三加葉乃上出あり然る朕も
 其說法をばききと高儀ある茲に迦陵といふ長者あり富國無比者なり天性大
 善根のあり財を散貧者に賑ふをばす此頃世尊大偈國小來り法を説き
 小の稽舎をば見く迦陵長者大擅那となり我が竹園に稽舎を造営して
 是を釈尊に獻る如來感納し彼の五百の徒弟もも稽舎に移住し其
 我迦陵竹園稽舎と号國人の為不法を説き頻婆娑女王も夫人も諸大臣も
 俱に迦陵竹園に結其說法を聽きあり歡喜踊躍し其數の絶物に獻せ
 らる王宮に還り牢獄を用ひ罪囚を宥り大赦を行き其人民も世尊の

法然仰尊尊なり時小釋尊乃法弟安陸汝門鉢を持市中ふく赤を乞うる
一人の婆羅門の往遭ね此人名を舍利弗と呼ぶ王舎城の産門学の友目連と俱
小此頃之偈國未入り住と兩人も聰明俊才も廣く書繪に通じ神通亦廣
大なり能く者稀なり然る舍利弗今安陸乃托鉢をも乞ふ其動靜乃
尋常なりぬを感じ進む向曰汝が為鉢新小出家者如不知你師如何
か人更其名何と呼如何なる法を教誡さるや安陸曰我師六伽陀國乃皇
子也曾々菩提心を發し檀特雪山小今登り不惜身命乃行をなす更十二年
遂小無上真正の旨成悟りむる名を釈伽牟尼如来と稱一切種智を得神通
窮なり我若年小く学こと日久しうされ如来乃妙法の萬が一なり説事不能
唯一偈を授り汝が為小云云を乞ふと其偈小曰
一切諸法本 因縁生無主 若能解此者 則得真実道
舍利弗此偈を授く神心朗らか如く心小思ら我若今日より学し所真の道小

あを釈伽佛乃教と生死成離る大道より我今より世尊乃徒弟とあるん
と心已小決し安陸小向曰初々如来乃妙教を授く胸中乃雲霧を拂へるも
如来今何國小住しや安陸曰竹園精舎小在る法を説むり舍利弗悦
ば曰法を我弟子成從へ精舎小參詣し如来乃妙法を授く安陸と別
く住所を飯りる目連是を迎へ舍利弗が面をみる小怡悦乃色頬小見を
平素と異かれを問曰師兄面色歡喜を合し平日と相似ざる必し耳露乃妙
法成受りたる我御辺と曰く道を學び信友乃交を結ぶ若我妙法を授
く御辺小告御辺妙法を授く我小告よと約定せり若所あらむ我小説せ
いと乞舍利弗曰推察乃如く我今日市中ゆく一人汝門小遭彼威儀庠序
常人と異かれを必しと名師乃教を受るなる其故を問果し浄飯王の子
悉達太子今已小正覺を得る釈伽牟尼如来と名を稱せらる汝即ち其
徒弟なりと答へ世尊より授る所乃一偈の妙法を我小示せり是小偈く神心清



安陸舍利弗目連
佛傷



釋尊の法をばて
罪人を獄中より
助け出す

なるを寛く後弟と俱小迦陵竹園不到り。釈尊乃説法を安法門小皈せんこと
成思へり。御辺も俱小竹園小結くまむと向目連大悦び我悉達太子の大
名成度拜謁せん。成欲せんも未望成遂む己小学道成就て程遠
くね竹園精舎不法成説く天縁乃熟する所なり我御辺と俱小世尊乃
法弟となるをいと小ぞ。舍利弗大悦び二人育く其準備成をな小る然
小釈尊、天眼通成、早く是成知、左右乃羅漢小語く曰、十日乃後必む
二人の婆羅門後弟を引後、予が此精舎小結く法門小皈とて一人名を舎
利弗と呼ぶ。智恵弟乃人なり。今一人名を目連と呼ぶ。神通弟乃人なり
俱小予が道成推弘る上弟なりと仰せ。加葉亦曰、如来何を以て知むや。釈尊曰
予真正乃道を悟り六神通を得ん。三世を觀通し物くて知ざるを更なりと仰
加葉亦感歎く。かまむ是を信ず。然る所安陸四り来り。弟子市中めて二人乃
婆羅門小遭一偈を授け。其始末を語り。是必と舍利弗なるをいと猶と

説法く衆生を教化し。又竹果く十日余成過く。舍利弗目連二百人の後弟を
引連く竹園来り恭敬禮拜し。各名を通く。加葉乃説法を聽き。隨喜の泪
成流し。法弟とんことを望ふ。猪羅漢始く如来の六通を得ぬを知ら。讚歎
て不止。世尊又舍利弗目連亦が為法論を轉し。四諦を説く。舍利弗目連亦
歡喜踊躍し。薙髮して佛弟となり。阿羅漢果を得。斯く世尊、竹園の説法
畢。舎衛國拘耶丘國波羅婆國亦を周行し。説法し。往々迦比羅國と大伽
陀國の境ある波曼祇耶と。市小出か。舍利弗を召て曰。予生老病死を厭故。小
父母を捨て。心修行と。今已小学道成就。父母の國小近く来り。理見と。命
なむ。小你毘羅城到り。予が不孝の罪を謝し。龍顏を拜せ。更を願ふ。命
小舎利弗法命を領掌し。神通を弄く。刹那回。飛行して。大迦陀國の都小
到り。大光明を放ち。人民大悦。斯と王城。淨飯王。其故を知。官
人を出し。其何者か。我乳をら。此時舍利弗王宮の門外来り。又手して。王官人

向く曰大徳の何人か何の爲に於所来也舎利弗曰貧道釈迦牟尼如来乃徒弟
 舎利弗なり如来は是淨飯大王の皇子悉達太子なり王宮を出て檀特雪山の法堂
 小難行苦行して真正の道を需むと十二年今已正覚を得て山出一切衆生を化
 度し此國近く来りて依て弟子を以て不孝の罪を謝せり願ふ此旨大王傳
 奏しとて官人悉達乃二字成字且孩た且悦び舎利弗を引て朝廷に到り右乃
 上皇の傳奏官小就て奏しを淨飯王三千年の桃の花咲海中乃優曇華乃開て
 心地に朕太子小別て已現世也相見て能くもと十余年が間は之を敷た勝
 を断せり小皇も之を再び太子成んは是は夢も現うとて歡喜踊躍し勝を
 舎利弗殿上の清て礼拜しは是者厚情の依て太子の消息成て小勝を
 即刻迎請の車駕を進とて不知如来今何里在や舎利弗曰波優祇耶在て
 專て貧道を回報を待むる淨飯王曰然を尊者と俱に結招の官人を進とて夕陽
 山吉龍殿に如来乃実母故て耶夫人の靈を鎮祭る所を先彼所法駕を結

面謁とて烏陀夷小五百人乃官人を副車駕を齎して舎利弗と俱に波優祇耶の
 市へ赴りし其月景城の御使を多とて太子学道成就して波優祇耶に未臨
 り使僧を以て對面を乞ふ小し結招の爲車駕を進せり先太子小仕下輩
 盡く夕陽山乃青龍殿に到り如来乃法駕を迎ると命せり憍曇彌夫人是を
 中む唯是盲龜乃浮木小遭て如命り乃更に憍曇彌夫人は頓小新官殿野
 瞿陀弥なり太子宮中不在せり時勤仕せり女官勅命を傳へ久々中太子小見
 事なれ身を清りて参ると面々小嚴た新衣重は贈らる是は依て女
 官小悦び勇まるとり者なり其弟小独痛みたる耶踰陀羅女乃御上り前小鏡
 一如太子出塵乃後三年過て若宮を産む小種々乃去貌せり憍曇彌
 夫人小疑れむ世は憂もの小歎たると若君と俱に垂簾との月日を送む
 之れを影乃花小異なりと維有る事訪来る人ゆりて今般架末乃夕陽
 山へせむふり告る者なれむと知るおりて小此宮小仕る妹女一人お小

参り太子御望を遂むひ尊た如来と仰られむひて近き夕陽山へ来らせむおよ右
宮より官中乃女房達新なる衣を賜り各青龍殿如来の御迎へと参るよ
り見え侍ふ此宮へとて其賦衣乃さむらぬ事と恨負小告されど耶陀陀羅女も
一度悦び一度怒むひける御更おも此宮も疾告らせむらぬ其更なれば若
官産此をむひより絶言とる今更に上おも猶疑ひむひとて世小朽折る怨
も思及御衣の袖を絞る許は泣ひひる年頃待これより如来此時見まより若
官乃御更見え上ども何時身乃濡衣を干ばんと推く在官乃御許使をさ
き風小吹さむ心太子学道成就ひひ青龍殿光臨をむひ中より鹿野瞿陀彌
乃二方より太子お仕へも人々御迎お参り可憐願くは更も御免を承りて
よそなきも如葉を拜まへりひとせられぬ憍曇殊夫人もささる衣小思召
され心任せむひむと回答なりむら然も賦衣の沙汰なかりれを最面伏ながら
如来小見もろ然憑小若君を伴ひ令火列後夕陽山へ赴れむひと

淨飯王對顏叙尊若官知如来

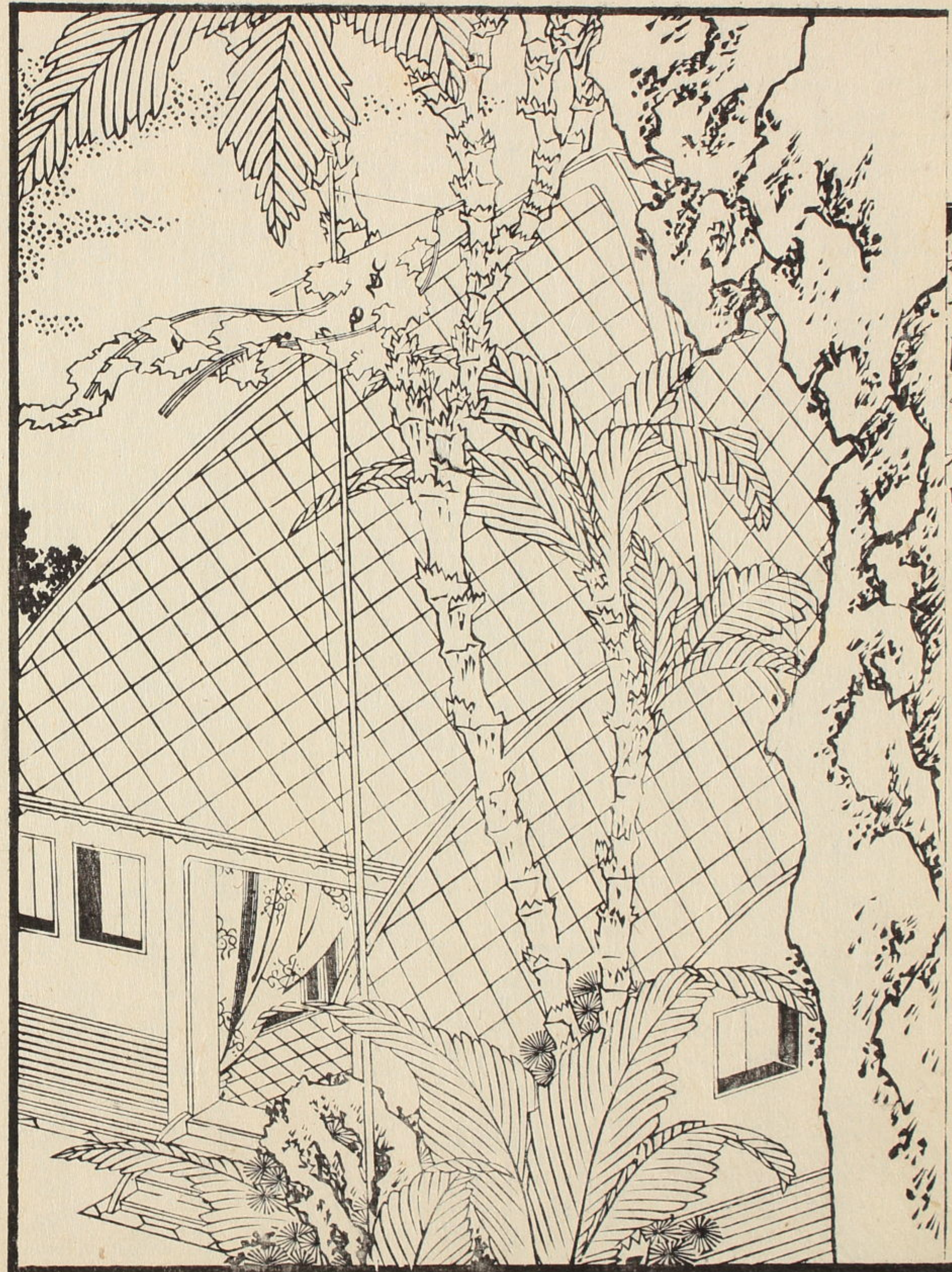
佛弟舍利弗勅使烏陀夷と俱小波優祇耶回り王命戎報これ如来歡
喜むひ烏陀夷を近く召て別来の素情をの長途の疲勞を徐むひむ
ひる小を烏陀夷も恭敬礼拜し世尊乃法顔を足なる小さうも美王の如くな
り貴層の十二年の難行の瘦黒むひ昔の面影在れも端嚴乃法相尋
常なりと二千五百の阿羅漢の中お在る体萬星の中お名月乃出る如くおて
自然頭の依る心地隨喜の泪お伶を沾りおが学道成就を祝ひなりと車
戎車半乗しむら更を乞世尊是を許して仰るも予が身往日と等しむら
豈車駕小乗むらたも難く止む退けりむひ偕目連如葉們を顧り曰予今
般故國小到る息愛の絆小更むらわを下化衆生隨縁真如乃為かれ女時
師弟の乳を除た伴侶と成り赴くを神通を以て紫磨金光を搏り
緒羅漢とひく難行の姿と現し車も乗む草鞋を踏く歩む烏陀

夷之已事戎得之官人を従ふ先戎拂ふ其次ハ三加葉先達ハ五百の僧侶
 左の路を往舍利弗日連富樓那先達ハ五百の僧侶右の路を往世尊ハ五
 百の僧侶を従ハ中路を往ハ大伽陀國の人民蒙ク此吏を皮傳ハ如來ハ光
 臨戎拜もん蟻の群ガ如ク地聚リ波優祇耶より多陽山中ハ數百里ノ間路
 上ハ兩辺ハ坐戎連錐をまゝの地戎ハ残を今ヤクと待所ハ前隨ハ官人鉦鼓
 管絃を奏シ通行其次ハ一千五百の河羅漢三行ハ列をまゝ通ハ然
 中是ハ世尊ト人をもるなれあハ有ハ其よしハ圖ハ衆人大ハ望
 戎先ハ唯何トハ覺ハ皆傷仰ハ首戎ハ依ハ斯ハ日戎重テ世尊
 ハ夕陽山青瑤殿ハ著ハ殿上殿下ハ莊嚴善ハ美ハ伽羅梅檀ハ香
 馥郁ト名香世界ハ異ハ殿上ハ左ハ淨飯王ハ玉坐戎後ハ其次ハ橋
 曇弥夫人ハ坐其より新宮鹿野瞿陀弥ハ許多ハ女官居ハ耶跢陀羅女
 中若官戎緒ハ其中ハ居ハ其大三臣月卿雲客百司百官今日を曠ト衣

冠を飾リ魏々堂々ト泰烈ト右ハ教尊ハ法座及ハ衆羅漢ハ席戎設レハ時
 中世尊目連舍利弗二加葉以下ハ雜リ昇殿ハ法坐ハ著ハ淨飯王ハ夫
 人新官月卿雲客ハ如來を拜ハ目戎ハ皆一様ハ藤ハ太布を墨ハ
 深ハ衣戎著ハ木葉を糸ト編ハ袈裟を日ハ魚ハ瘦疲ハ沙門ハ
 何戎ハ衆人憫果ハ許ハ維ハ人ハ護ハ者ハ茲ハ耶輸陀羅
 女ハ若君ハ俱ハ女官ハ中ハ居ハ身ハ垢衣を脱ハ此時ハ若君ハ耳根ハ
 口戎ハ此年月雨ハ風ハ悲慕ハ又君ハ彼羅漢達ハ中ハ在ハ脚身是
 又君ハ思ハ進ハ遺物ハ脚片袖を手ハ渡ハ此時若官十才
 小ハ母君ハ仰を得ハ件ハ片袖を把ハ人ハ檢ハ出ハ王
 乃近臣是ハ引苗是ハ玉坐ハ前ハ何者ハ見ハ出ハ疾退ハ吐
 々々若君ハ物獻ハ知ハ義ハ袖
 振ハ徐ハ步ハ弟三ハ座ハ羅漢ハ前ハ跪ハ慎ハ片袖を捧ハ

其時彼羅漢手我伸て片袖を採完示と笑々不変真如妙覺無為衆生智願皆
圓滿と唱ふ忽ち阿羅漢の形を傳へて三十二相八十種好光明無碍大覺知現乃
法相を現し玉の御身より大光明を放白毫より金光耀々殿中の七宝錦繡小映ト
いろ色なる増ふ浄飯王嬌曇彌夫人其余今や疑ひ惑へ人々堂上堂下一齊
小此奇特をんくあつと感嘆し思ふを首を低く礼拜しをて千五百乃阿羅漢も
座具をのぎて恭敬礼拜し本日本佛南无釈迦牟尼如来とを唱ふる是成んぬ耶
輸陀羅女の嬉したるなり我らと列と出はく佛足を拜し世尊の御又浄飯
王御母嬌曇彌夫人を敬礼し玉の不孝乃兒大息無比乃父母の慈心不悖り宮中を潜
出出家学道せし重罪謝しなすふ約なりとせむ一切衆生の煩惱を救ひ極樂浄土
へ引接せん為かれを恕しおきませ借し由此雅れ者耶輸陀羅女子が宮中を出し後三
年成徑り所生かち諸人々其期後々妊婦せ成ん疑念を生じ是非の議論
有るなれども耶輸陀羅女貞操無双なり敢て行状穢と者かあを予別離の期

小臨と彼ら胎内小指ぎて三年の後男子を生ずと言は是世の不知所を疑念を生
じしるも理なり然とも因位乃予が子なる成んぬを錦の片袖小對一偈を唱ふハ不
思議なるふ忽ち廿五言の妙文織せり如く現し浄飯王手小採り見むを
我去後三年過可得善男子即是我因位為正汝生來大善知識
とあり浄飯王大の讚歎し玉の后宮嬌曇彌小見せむ疑念初て霜乃如解後悔
慚媿小勝むを三加葉舍利弗目連以下も尊た若宮乃因位ふとて世尊といひ敬
礼しをれを堂上堂下無數の人如来の神通力若宮乃聰明耶輸陀羅女乃貞操を賞
感涙を流さぬ人となりたり斯く世尊と緒羅漢と俱小御母大耶夫人乃靈位を祭むハ
陀羅尼を誦一般若を行はく吊ひ玉の生身乃如来高德乃阿羅漢の供養し玉のこ
れを靈魂も嬉しく思召天上乃樂竟生玉のめと最のやを之見へる其後浄飯
王別殿小如来師弟を結せし肴成供へ供養し玉の別後乃御物語り玉の歡喜
小勝むを若君ハ其日より佛弟となり玉の法名を羅睺羅と号舍利弗を文書筆道



釋尊夕陽山やんせんやうざんに
到たりてしてん四天王しつてんをあめ
諸天神寺しよてんじんじと渡わたの圖



乃師おぞ附むひなる

阿難伽難優婆塞離耶論陀羅女得道

其後旬日之く浄飯王青瑠殿乃後堂を浄法座を儲く世尊師弟を結ぶ效經
我説ませむと望む世尊勅命を畏く仰るる年来若行身命我抱ひて一切人天
を化度せん為ふに説法に望む所なれども又王法坐下子居ひて説法に唯高
坐小簾我垂く聴皮方一と仰ある浄飯王坐玉ひ是は思ふよむね仰ふ
三千世界人天の中如来の上坐小坐る者やいざれ朕が事我念とくむを法
座の上りて説法しむと倫言あれども世尊尚推返し玉ひ説法とく由別乃義
以てこそ衆生乃邪を滅め悪を退け自然の善道不至むる階梯不いそ人
七思あり是を知を以て人倫く不知鬼畜木石おも考り先弟一は天地の思人乃
胎内小宿るより生育まると天地乃惠小非く此思を不知者ハ死して無明の
闇小迷ひ昼夜を并るく能くも第二は國王乃思人生く天地乃惠我得るとも

國王聖明をうられ又母も艱く能くも其思我知され地獄小墮落く猛
火乃為小身成焼く乃苦患あり弟三は又母乃思母胎十月の深思くち出生後
父ハ終日小出く世業の為小身を勞し母ハ終夜養育の為小眠を此思我不知を
畜生道小生得或ハ五昧不具乃者と方る弟四は師乃思人生長ととも教導
人々を鬼畜小異わく此思我不知を後身愚痴無智乃者と生く終小愚
趣小墮落を弟五は朋友乃思假令師ありく教導とも良友乃補わんを幾薩
ころ更我得と此思を不知者ハ慳貪無慚乃者と生く天野を業る弟六は
後類眷族乃思良友ありく過を正し非を練善道小導とも眷族乃助力なく
てハ錢財竭く長久を不得此思を不知を後身人非人とわりく終小餓鬼道小墮
落を弟七は衆生乃思身小良友眷族乃助力ありとも衆生其能を愛し才賞
せむん世小交る事能く此思を不知を後身孤獨乃者とわり刀劍乃地獄小落
慎でも慎むるにハ此七思なり就中予弟二弟三乃高思を出家りたること須弥山

猶依く滄冥海の中尚浅く。然も天王を下置たり。予も身高坐の上亦在く。說法
を講ずるも緒天の惡を結十二年の難行の水上の泡と消はる。と仰る。浄飯王
龍顏の感涙を降ちて。其の實有る。是れ御妻の是れ増たる。說法のあり。と仰る。御理と
ん。佛意の持人も悼あり。朕は簾内に入る。如来の高座の上り。御法
成説をへ。己更成得と。玉座に入せむ。是れ依く世尊法座の上り。世尊の
四諦十二行法輪を轉し。般若の功徳を説く。浄飯王の更なり。后宮新宮
及び月卿雲客隨喜の涙をとら。その中の中。甘露飯王の御子廣耶太子
今も世尊の說法を聽き。あり。感伏あり。實も世路の惡道。日々小近く。世尊の善道
の後。不遠く。厭ひて。も。生老病死若なり。真も。甘露の法味あり
唯願く。如来我が法弟と。世尊の修行なり。願く。世尊の善來比丘
と。即時に剃髮させ。法衣を着せ。是れ阿難尊者と。又聞通を得。十
大弟子の一人。是れ。白露飯王の御子。梅陀太子。尊者。烏陀夷。尊者。由はく。

佛弟となる。是亦十大弟子の中。其他の時。比丘となる者百五十余人。及も。茲
小耶輸陀羅女。人の身。出家得道あり。心中に思ひ。世尊の再入宮中。四リ
む。大王の疑ひ。解胸裡の闇暗。これ。現世の思出。是れ。過を若
君も得道し。女を戒律を授り。善提の道入。舍利弗も就て出家
の望あり。願く。世尊の許す。耶輸陀羅女大に歎たる。再三再四
願て止む。目連其心を憐れ。如来も免許あり。更を乞と。世尊尚も肯く。予
と。曰く。女人も。予が法門に入。佛法清浄の道。悠久なる。更。壁を。稻小
莠乃雜生。遂に稻の秀。如く。只善提の念を止む。と。固く。許す。されど
目連の理。伏し。耶輸陀羅女。其言。告唯。幾心の念を思止り。と。練む。妃大に
望。成失。深に歎。不沈む。一時阿難法用。小就殿門。出。時妃。弊衣を着。徒
跣。路の上。跪。號泣。地。倒る。阿難。其故を問。妃。答。曰。吾。偷。善提の
道。入。更を願く。如来。敢く。許す。此故。怨。不堪。と。答。と。ひ。敢

と亦雨を泣き泣き阿難其志乃切なる哉感一扶起一慰て曰深く歎れ其妻を我如
来小絹一憫願ひ御望を達せし進まを一とて使小偷一宮中一伺り小借世尊小絹一
関く曰曾て如来小承多過去乃緒佛皆比丘比丘居優婆塞優婆塞乃四部の衆を具
むりと統むる此支実小や否や世尊曰素り過去の緒佛小四部の衆あり阿難曰此
を何故耶輸陀羅女小出家得道哉終小を言るや世尊曰女人小物小感一安く亦愛一
安一此故小狂忽小許さる彼一八敬を守り大猪進をわく一愛せざる得道を終
る一阿難悦ひ退く耶輸陀羅女を招く世尊乃仰を告るれ也妃小歡喜小不勝天地小
誓ひ八敬を守り大猪進を下とやささく小より阿難其肯哉世尊小佛勅を受く戒師
となり遂小妃の飾を落し比丘尼となし耶輸陀羅女此時三十七歳盛女一過ねれも尚
散残る花乃面貞端麗なる小丈夫余る緑の黒髪を薙る小羅綾乃袂を墨染乃袖
小之小六殊勝小亦難有る一慈悲なり世尊是を覽し善哉比丘尼と賞一玉ひ
御名を妙惠と号し此時年来妃小奉公せ一嫁女五十余人小悉く剃髪一く女僧と

かりぬ斯く耶輸陀羅女得道乃更月景城へ見えれを憍曇彌夫人怨も亦殊勝小
思召夕陽山の麓小庵室小造管く進せらる小妙惠居小不堪深く思哉謝一
庵室小移住一善提惠中と四字小顯せ額をもち三摩耶行小入行ひをみ一とぞ
御座らる小女小乃出家一佛弟子となる更小妙惠居り権真まら思之りあら
阿難尊者乃法情小所なれ未代と小女僧とあ人者如来乃御更ハと更なり
阿難尊者を供養一法恩を謝一もるべかり

釋尊於初利天謁二世母君

一時世尊諸羅漢小仰多ハ予往年檀特乃難行終一時法乃師阿羅々仙曰你的信力
小依く実母六耶夫人上天小生受切利天王乃后妃小具きりと予其時ハ三六通を得
かん信せざるが今已小三明六通を得三千世界を觀通と小阿羅々仙乃言果
しく虚からむ故小予切利天小昇り帝釈天小説法せんと思り三加葉舍利弗月連
阿難伽難富樓耶優婆塞離等ハ予小後く昇天小仰れを羅漢達大の歡喜一

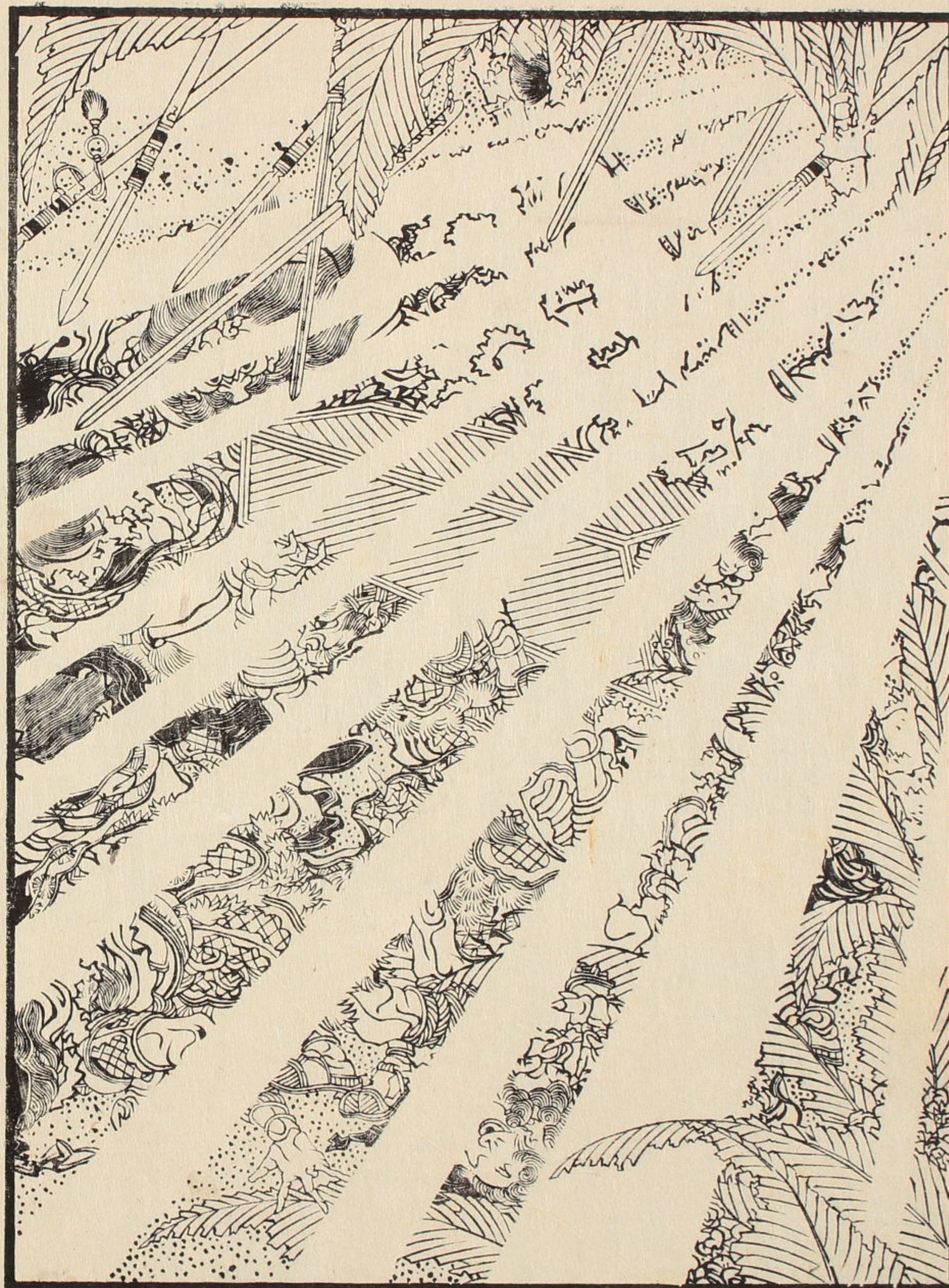
其日遲しと待れり。世尊八月一日より七日の間修法あり。満ちる日天門小向の魚蕉
不生現神力不変真如妙覚口満今現在當来同示摩河行兼と唱へ六迦薩如意
を以て虚空を摩訶を奇なるも忽ち金色の雲を以て降り雲中八葉の蓮
華座終あり。五十二菩薩来降あり。如来師弟を引接く蓮華坐の終り切利
天を昇むひる。絨如來乃神通方不思議と下由疎かり。斯く世尊八緒羅漢と
も小切利天の到むひ密室乃内院を御覽あり。金剛妙色乃雲中十二守乃臺あり
と。東乃殿の善現殿と額あり。西乃臺の喜見城南乃樓の学益胎現とあり。釈
尊阿羅漢を顧むひ予が法を説ぬ。八南殿なり。女時傳立く在る。東臺の
玉扉を開け飛行神力の天童數百人小圍繞せ。帝釈天出現し。世尊を恭敬
禮拜し。曰。妙覺無為乃如來。と。來臨を辱む。帝天乃幸福何乃幸。これ小
遇のなれと拜謝あり。世尊も答禮して曰。此切利天の來る。三箇條乃專用あり。弟
一。八五十六億七千萬歳賢劫三會の曉。弥勒菩薩出現し。未證乃衆生と降度

有る。是れ時乃為前佛後佛の血脉を授も。人為二。大集月藏經を附屬し
ま。人為三。小喜見城小住し。ち。后妃乃前身の予が乳味の太息を蒙りたる
母。在る。報恩乃為説法し。ま。人為なり。と仰る。帝釈天不審思む。い
如来の金言疑ひな。ふ。あ。孫も。后妃乃年八十八才なり。然。所生乃母と仰む
る。如何なる。證迹乃い。や。と問ふ。世尊曰。后妃乃因位の昔。广伽陀國乃主。淨飯王
乃宮妃。備り。一。耶夫人。予。が。出生後七日。乃後逝去。む。以。愛執乃。闇。迷。ひ
む。予。其。苦。患。を。救。も。ん。為。發。心。修。行。難。行。苦。行。乃。功。力。依。て。無。明。乃。闇
我。出。上。界。小。生。を。受。君。の。后。妃。備。り。む。り。猶。も。疑。ひ。む。兼。二。世。の。對。面。を。見
時。乃。證。迹。予。胎。内。小。在。時。乳。汁。を。残。封。たり。今。喜。見。城。乃。帳。内。小。乳。房。と
交。り。む。乳。汁。逆。り。予。乃。内。小。通。し。示。し。帝。釈。天。奇。異。乃。思。成。乃。む
ひ。天。童。乃。終。り。后。妃。乃。脚。絆。如。來。乃。金。言。を。傳。む。后。妃。は。は。ま。れ。更。小。思。召。ふ。と
如。來。乃。金。言。と。以。帝。釈。天。の。勅。を。れ。已。更。を。得。む。九。重。の。翠。簾。乃。内。三。重。乃。錦

帳を隔、素雪乃脚胸を肉乳房を絞り、乳汁糸を曳、如錦帳を
超翠簾を漏、世尊乃内通、多不測、帝釈天、阿羅漢、此奇特
を、あつと感、思、首、低、傷、仰、あ、后妃、歡喜、勝、喜見、殿を
立、出、世尊を礼拜、二世乃對面、世尊由后妃を拜、其後、学
益胎、入、帝釈天、前佛、後伴、乃血脉、并、月藏、經を授、与、次、后妃の爲
小般若を説、是、小依、后妃、帝釈天、織、善根、純、熟、永、生、老、病、死、苦を
五、其、御、歡、余、后妃、拈、花、于、折、如、来、捧、願、一、佛、淨土、の、引、接、を、違、ま
更、之、固、結、縁、拜、一、佛、摩訶、曼陀、羅、華、是、今、佛、前、花、獻、人
ハ、慚、愧、懺、悔、万、德、円、満、六、河、曼陀、羅、華、と、此、文、を、唱、捧、之、諸、天、緒、菩、薩
納、受、一、佛、淨土、其、基、小、到、疑、か
提婆、達、多、冠、世尊、平、都、婆、切、德
世尊、已、小、慈、母、と、二、世、乃、向、顔、を、以、説、法、殘、所、を、終、り、以、今、下、界、下、ら、ん、と

帝釈天后妃別を告、余波を惜、苗、果、を、帝、釈、天、を、將
小命、如、来、還、幸、の、路、三、の、宝、指、を、造、中、央、八、箇、浮、檀、金、左、瑠、璃、右、瑪、瑙
其、雕、鏤、細、密、一、之、乃、及、所、あ、世、尊、師、弟、是、を、跟、下、小、梵、天、蓋、を、執、四
天王、左、右、を、守、護、二、五、菩、薩、前、後、を、圍、繞、花、を、散、技、樂、を、奏、其、他、無、數
の、諸、神、緒、菩、薩、恭、敬、礼、拜、送、り、ま、う、小、尊、御、更、な、り、不、測、の、魔
障、あり、世、尊、の、叔、父、解、飯、王、御、子、提、婆、達、多、八、往、年、小、ら、始、の、勝、負、相、撲、の、勝、者、な、ら、ん、と
小、敗、せ、り、深、く、遺、恨、を、含、み、如、何、と、の、仇、を、復、ん、の、思、小、乘、達、太、子、宮、中、を、潜、ひ、出
行、方、を、成、成、ひ、女、時、其、嗔、怒、を、忘、る、小、学、道、成、就、と、再、び、世、を、出、ひ、一、萬、人
其、法、德、を、仰、尊、信、せ、者、な、れ、提、婆、達、多、亦、嗔、毒、の、炎、胸、小、死、世、尊、を、害、佛
法、を、破、滅、せ、ん、と、大、惡、念、を、發、て、摩、揭、國、の、北、冥、山、小、住、法、性、妙、顯、と、神、通、廣、大、を、能
魔、神、を、役、使、ま、道、士、を、師、と、邪、道、を、学、び、神、変、奇、特、乃、術、を、習、ひ、究、め、雨、を、よ、び
風、を、招、く、更、得、多、今、如、来、乃、切、利、天、より、降、更、を、知、是、を、究、竟、の、時、節、よ、と、て、十六

佛威魔軍を懲るる図



大王百種外道七道速疾鬼等を招於聚波羅那國の鉄田山の平腹小屯。世尊
乃還幸於妨げ害もんと謀る。世尊早く是を知りて。惡大外道及び
遂に佛果を得せんと却て大慈愍を生じ。此の怖を緒羅漢を引連雲上よ
り下りて待候。天魔破旬百千の惡相を現し。毒霧を降し。黑雲を發して。世尊師
弟を千重万回とて。箆利箭を射る。更雨乃如し。世尊微笑し。以て大伽薩如意と
揮ふ。數萬の箭を忽ち五彩の妙花と成。毒霧亦却て香風と成。肌を涼
しく。六軍此体を多く大に怒り。鋼刀を揮長戟を回し。斬近はく。世尊亦如意と
以て虚空を拂ふ。數万乃刀戟六軍乃手を離し。空中に遍滿して。却て六陣不向
て降下。こと雨の如く。六軍狼狽周障。踵を及して。逃んとする。四天王十六善神
其他無數の天將四方に充満。大慈乃弓箭前を張。或は降下。乃利劍を閃。喊
を發。攻まむ。進退究り。手足を張。戰慄。只掌を合。て世尊を拜。大慈
大慈本師。佛哀愍を垂。と泣。慈を世尊。是を憐。と。以て微妙の御声。一切

如是大慈師緒惡莫作。衆善奉行。共益。横難と唱。を刀戟六軍の手。小回り。緒
天弓箭を弛。六軍深。慚愧。身を急。形を消。逃失。を提波女達。多。睨
果唯一身とかり。這て。逃回。本國。小用。箆。小面を合。得。を深。身を耻。を惡
念。猶。増。如何。て。世尊。を害。せ。と。日夜。惡。謀。を。回。る。世尊。六。軍。を。と。以
伽毘羅城。小還。幸。あり。夕陽。山。改。て。大。河。大。耶。山。と。号。一。情。瓊。殿。を。梵。利。と。て。切。利
天正。寺。と。号。初。て。又。母。報。恩。經。を。説。む。以。愍。曇。彌。夫人。乃。為。小。菩薩。大。河。般。若。經。を。説
む。以。烏。將軍。夫婦。乃。為。小。戒。心。報。謝。經。を。説。む。其他。月。卿。雲。客。の。為。小。種。々。の。妙。經
を。説。む。不。と。佛。法。小。依。と。る。人。益。多。く。愈。御。弟子。の。數。ま。さ。り。其。後。世。尊。八。猶。も
緒。國。乃。惡。種。を。除。度。せ。と。緒。羅。漢。を。召。具。て。大。伽。陀。國。を。立。波。羅。那。國。を。さ。て。赴。た
る。所。亦。提。波。女。達。多。國。中。乃。兵。を。募。り。郊。野。小。埋。伏。し。如。來。師。弟。を。害。せ。と。謀。り。多
三。明。六。通。乃。世。尊。早。く。是。を。知。り。猶。も。小。體。を。緒。羅。漢。を。後。て。野。徑。と。過。り
五。提。波。女。と。見。た。と。號。炮。を。射。伏。兵。小。指。揮。と。多。く。二十。萬。の。兵。馬。一。多。小。發。起

叙尊師弟を百重千重小取圍之箭矢射きて雨の如く刀劍の霜を降しと攻
 進む然も世尊及び緒羅漢の身より金色の光を放ち日輪に向ひ妙く定ふ
 姿を又とむる斐能く箭前へ悉く半途より飛回りて提婆が軍を射るは
 如來の慈方小依一人も傷者なく刀劍を揮者も金光も眼眩く近付得ず
 小進する者も世尊の慈顔小向を悪心忽ち善心となり我らも刀劍を捨て
 恭敬禮拜もすも百千の陣自然解く安々と波羅那國赴たひたり提婆
 達多大小氣が焦燥自身三又の鋼鎗を提金翔鳥の如く走り追蒐する小
 前面の大地裂く猛火烈々と燈出焰提婆が身を焼くも追蒐する小
 道を走り追入るとれ前面の地俄然と大河となり波瀾を承く深たる底
 成るも是も依り提婆牙を噛み憤るも世尊は追くも能く手放さず
 て本國へ引回したり斯く世尊師徒は提婆を難を避く波羅那國高盧山の
 林麓を過りあふ高十丈の黄金の平都波女より世尊傳ふく禮拜しむひ

一見平都婆永離三惡道何況造之者必生安樂國と唱へ両眼小御洞をぞ見ゆ
 大加葉尼もろく不審しこれ平都婆八十地等覺の功德ありと承きも妙覺無為
 乃如來偈仰禮拜しあのみろく御落涙ある如何なる御叟小やと問世尊曰如葉の
 不審理かりきならん此平都婆就く鏡堂と名付物結あり此波羅那國の都城
 を波羅斯耶城と号し今より三生前乃王を慈明王といひ后妃を好香夫人とす
 せり金色太子といふ皇子在せり又慈明王因位乃戒行拙く難病小惱伏すより
 臣下高織して普く各医疾嚙り療しども女も功驗なく愈病苦を重くも宿
 陀山の阿耨部仙人慈明王の病を看此病を平愈せんと欲せし生より以來憤
 怒を幾せし仁心深く人の意を破らざる人の生膽を取らざるなり即時快
 復を命じと奏を群臣是疾はやく曰くも今生く生涯憤怒を幾せざる者有ら
 ざるやゆんや善惡成就く人の意破ざる者猶有らざるも世小をた薬を求人
 より父王の流汝川の北岸小捨太子を位小即も命じと儀定ま好香夫人這叟

狐史むひく深く歎む太子の子細を告ぐ仰多々大王悪病小卧史む臣下の
徒流汝川へ捨れんと織とたんと國の旋りも争う大王一人を捨てる忍人吾情
由俱小流汝へ赴くをたれを永く太子と別きんと雨と泣き太子史臣生く
以来怒を憤らむ人の心を破る者の生膽を用ひて又王乃難病愈ふた
九是を求くも何と捨れぬ及ぬと曰わぬ夫人大悦びむひ然も求く進
せむと宮中へ入り金色太子近臣小密意を云合其後自身胸を裂て生膽を
引出し臣下小与く死し臣下小涙を隠し太子乃生膽を苦小入る体史大王
小献る王歡ぶ即時小用ひひひ仙人の幻果して違ふときもの難病一夜乃内小平
愈あつ上一人より下萬民も悦ぶと限り然も後史太子自己生膽を裂出して
覺去あまし史露れ又王母夫人天小怨と地小歎れ深く悔ふも其甲斐なきをせ
く太子の菩提乃為ふと黄金乃率都婆二千本鑄させ二千國小渡して供養あふ
夫人由り黄金を以て觀音大士の像を二千鉢鑄させ是も千國小渡して太子の後

生善所を祈む此功カ小く金色太子ハ三才又淨飯王と生を四天下乃富を極先
む然も又大王因位乃率都婆を感涙をなむ抑率都婆ハ五智乃功
徳ありと五明神カ乃尊形なり如葉向く日向を五智といひ世尊曰東ハ成
就作智下化衆生乃神カあり本地瑠璃光如来緒法通カ乃徳を具隨縁真
如乃形也鬼神魔佛十鬼化現の利益なり南明觀作智出せ世間の神あり
本地光明王乃尊形色即是空々即真如乃相好無明乃闇を照し不要真如乃利
益なり西平等正智なり本地阿弥陀如来緒法引導乃功徳を具縁無縁乃
隔りも撰取乃利益深く冥相真如乃相形なり北六四鏡智なり本地法性如来十
眼依正乃陣内を清淨堅固小具緒法成就乃功徳有く無尋真如の相好なり
央ハ法界他生智なり真明堅固功徳成就の神あり本地阿因佛座禪思惟の妙臺
中へ解脱真如の相好なり以上を五智乃功徳と縋り亦五明と所謂空風火水地
是なり天地を以て躰と緒法を以て種と緒縁を以て因と緒行を以て果と

志を平都婆を一度見る時十方乃陣内諸法乃道理諸佛乃依地諸願の功
 徳立所明なり東八水鉢青色形四南八火鉢赤色形三角西八金鉢白色形半
 月北八水鉢黑色形四中央八土鉢黄色形方方此効鉢を縁く法成就行
 成就願成就神速成就く佛といふ佛四種あり法佛化佛理佛直佛是之
 如是功德廣大中他の教をよみ即心即證乃功カある平都婆女れ諸佛出
 世乃妙法唯平都婆女等能せん故平都婆女を拜する一見平都婆女永離三
 惡道何況造立者必生安樂國と唱へて統ひ加葉以下の阿羅漢感涙みむ世実
 難有た率都婆乃功德く各恭敬礼拜し世尊小従ひ波羅那國へ赴き
 提婆達多勸謀叛斛飯王
 斛飯王乃太子提婆達多ハ這般也世尊乃威神力ヲ拉れ謀計画能と成れを
 大の望を矢ひ國へ逃回て心快くして樂まむ只管佛法を妨ぐを謀計を廻
 熟然と思惟く樹を枯さんと欲する時其枝を折んと其根を斷み不
 難有た率都婆乃功德く各恭敬礼拜し世尊小従ひ波羅那國へ赴き

我が釈迦と亡滅さし此理成て推れ父斛飯王ハ謀叛を勸る大迦陀國を伐て淨
 飯王を弑せん釈迦自然滅亡と云ふ亦這大惡心を生じ斛飯王不見く云々頃
 日承れ迦毘羅城の淨飯王七星の政乃節臣下を集り議せらるハ朕が子釈迦
 無為正覺ろ如来と成て天上天下乃至尊る然も未居住乃國を朕が種族乃
 中成る小解奈羅國乃甘露飯王ハ良摩國乃白露飯王伊沙那國の斛飯王是
 同種連枝うと魚朕が為小弟より臣ら然も年々の朝貢ハ心更なり時々奉觀
 一々慶賀を述べ死小独斛飯王の野心を懐く奉觀せざる猶奢放逸小耽り
 民を曹罪を死を殊罰し其子提婆達多亦惡逆無頼小生靈を殺害し
 淫酒小行を乱れ是を捨置時ハ下民怒り殺れ遂小逆乱乃緒を引出て國家
 自然他人乃為小伴存せざる不如朕四兵を遣して其罪を問斛飯王文字を殊
 一々伊沙那國攻取其を執尊小香華法燈の料とせ國家長久子孫繁昌
 乃基なりと仰出され小群臣是を卓輪と承伏して暗小征伐乃准備

のゆり其皮えの具是等困をぬ一大吏たり構て脚油断ひまると弁古巧小絨一やう
わど繰りたるまきり子は迷ふ親のたふし斛飯王提波女達を聰明睿智の者なり
と思ひ愛ふ溺し更なれは是を絨としく大の鼓を浄飯王さうの聖主少く不仁
乃成敗八露不も非し何が故なる暴悪の君となりむひんと拳を握て憤らる
提波女又か怒激乃体をなしく仕果たりと悦び又告ぐ目え来渠悉達太子天魔の為
小惑され宮中然れ出深山入て外道を師と邪術を弄釈迦如来たんと自林
一諸國を征歴し怪死法を流邪道を勧るふたり愚盲乃男女彼が妖術小眼
を昧され年吉小魅され親を捨妻子を捨剃髮染衣乃姿なる者枚挙しるふ
違あふ己小甘露飯王乃子廣耶太子も渠が徒弟とわりて阿難と名呼白露飯
王乃子旃陀太子も釈迦小惑され僧となり伽難と称も一國乃皇子さう猶如斯
なれを増て況其余乃者小終老下人々至小暇を乞ひ剃髮髪し子親小生ふ不及
染衣を著し皆釈迦の邪道小入ゆるを其主も其親も却て是を殊勝の吏と心

得主上下人等供へ親小礼拜せし僧と成勝る吏と思ひ情も思ひ
不顧釈迦の門小取とる者我千萬の限をあるも愚男小の苦心修行を勧る者以
しりも争う大恩の父母を捨妻子を捨血脉を断子孫を絶と如死悪道小入をれど
緇耻りや甲ひは是等乃吏釈迦の耳小入恨を令浄飯王絶せし小此國を
攻とてな死結構中出来し小と只出るも小散と純鏑しを斛飯王培怒り悪
れ釈迦行跡の原渠が母耶天魔の障尋む姓姫一三年の間孕く其臨産
乃時中種々怪異を現し右乃喉下成蹴破く出生せし將小親を殺せる鬼子なり
小浄飯王の六障乃為小皆遂せし其仇を忘る養育せし悉達其重恩を
不顧擅小宮中を出憂愁をくる吏十數年適還り来む姪れ法を流布し
愚俗を惑し忠孝の道を廢せし是真の亡國の教なり千歳小毒を流すと
謂なり好て我天下萬國乃為親兄なり浄飯王を伐亡し釈迦師弟を屠殺し未
代邪法を信じる者の滅せんと飽ま提波女毒言小惑され又子縊を示し合せ

是より時々臣下成聚く軍議一兵馬を調煉する心ある輩ハ大の小致た辞を
 竭く風練されども斛飯王敢く練を不用一因ハ加陀國攻伐の準備成り多小淋
 雨降續く吏小暗る日々緒所小洪水溢る官家民家は為小漂没一道路水深
 九吏一丈小余リ緒方乃往返船を以て通する吏能く國人雨濕乃為小患病を
 を生下家々々々小悩財多小を斛飯王大の憂ハ攻伐乃更さし其雨を止むる法を
 需むるの外他更なり提波安中惔果已師法性妙頭を請じて雲雨の法を修せし
 ひと魚其驗々々愈降つた淋雨三月及ハ百草根を断一ハ大飢饉となり國
 中の困窮譬人方なり是偏小釈尊を害せんを皇天乃惡之故なりと智
 臣小種々斛飯王を諫るふより女一懺悔乃心生下大加陀國攻伐乃念を止自已罪
 を天小公ハ誠心小祈れ其赤心成感納有久徐く雲霧雨止れを國人ハ
 て白日成拜一圓生る心地して悦ぶ限り

世尊使難陀羅羅羅見三冥土

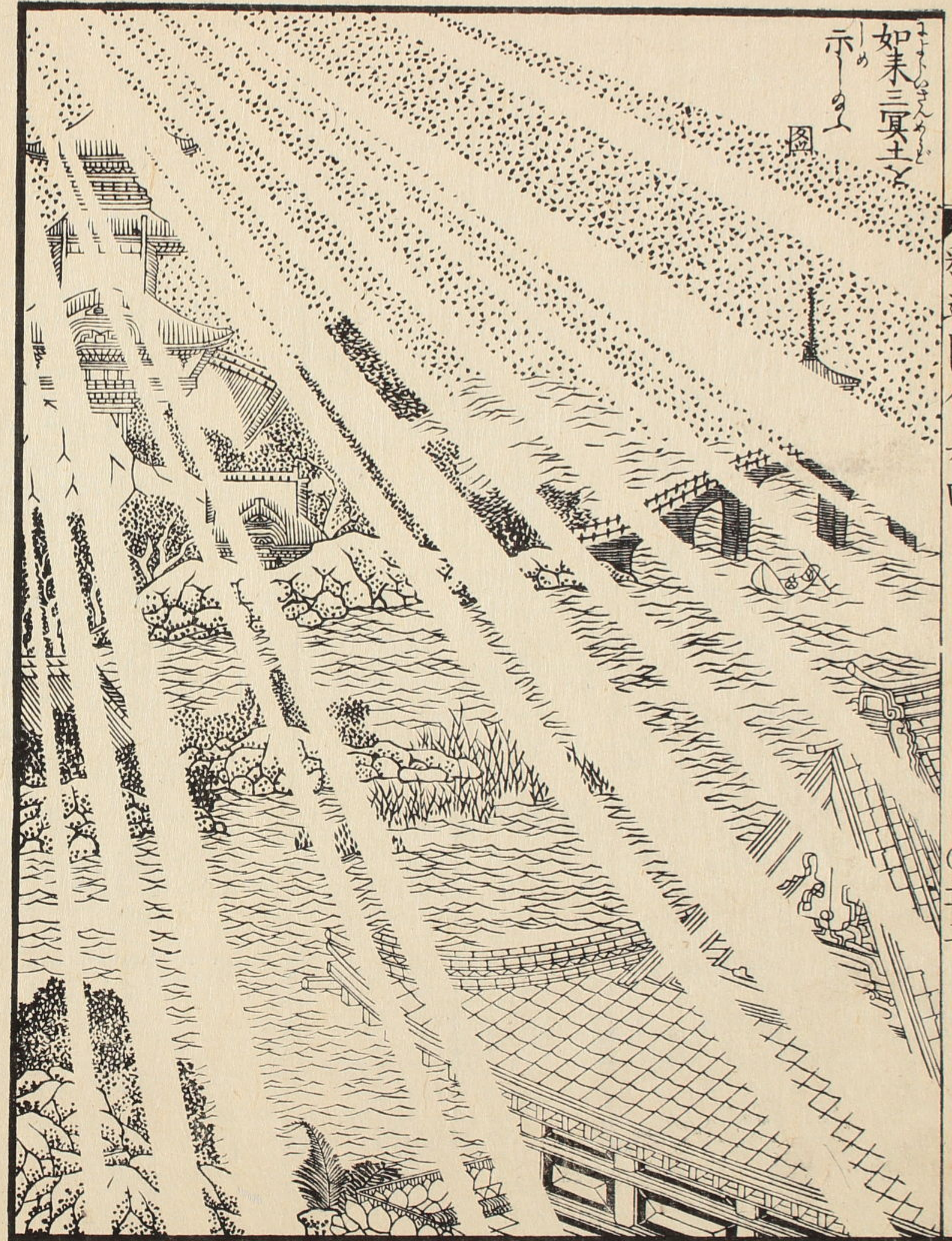
世尊ハ波羅耶國乃說法終リ夫より緒國を圍り衆生を海度一ハ亦ナ
 迦陀國伽毘羅城ハ圍ハ二千二百五十人乃阿羅漢と俱小忉利天正寺小住一
 九月十日より幾心三昧經を説む緒羅漢如法行如律行如冥行の三行
 を附屬あり翌年卯月八日より又母報恩經を説ふ淨飯王憍曇弥其外
 新官女官百司百官效惠居小至る法座小忉利一聽之各隨喜乃
 泪を催し緒羅法終リ緒卿法座を退た商議一々ハ如來這國小還
 玉ハ海中乃優曇華乃開一ハ等々國中ハ之を更たり近國遠境ま由如
 來成偈仰し其ハ萬乘乃窟位小即も天下信恭平小萬國從康た
 國家乃采萬代不易たる也一此昔帝小奏更廿八如何とす是ハハ目
 出度給儀なり是ハ勝る長久乃良策ハあり疾々其旨奏更と下と衆議
 一致一緒卿袖を陳る忝内一如來一御儀位なり其ハ皆奏一其ハ淨飯王
 殊更小龍顏慶く笑ハ一針らハ多敷朕由兼く此更を平日小願ハ如來

小玉位成讓るなり。生前乃本懐死後乃満足是亦不遇と思ふ。如來の深意
 茲量より未外せむ。然小卿等已朕が常願の如く衆議一致さる上ハ如
 未小錫して讓位乃議を告いしと紹介ある。諸卿大悦び鍾る領掌一直小
 切利天正寺へ参向す。世尊小拜錫し告る。諸君も君いま悉達太子と呼れ
 玉ひ御時より聰明睿智小く母玉心大王をなまり百司百官民回賤の末
 太子密位小就む。轉輪王乃威德隆小く。天下臣伏し。萬民太平の
 樂を極至し。天晴早く成長なり。初より小不意宮中於潛出悲歎心修
 行なさせむ。上人より下萬民を怨歎乃圍小迷ひ日月乃光を失ひ心地
 小難行若行乃功を重無上正覺乃如來と現し。神通自在を得む。還
 幸あり。度海中乃優曇花乃開し。猶勝なる。一國乃悦び此上萬人の願ひ
 小君轉輪王乃即位小即せむ。萬機乃政を執せむ。國富民栄。广迦陀國八萬
 代不易乃般希昌小くいさ。御又大王平日小此義を願ふ。如來乃深慮を

量より玉ひ臣等小紹介し。御即位の儀を勸めまうし。御所小ハ
 是御承引なり。玉ひ臣等が幸福何まう是小遇はる。冠を傾け只
 揃てぞ告ぐる。世尊熟告る。仰々る。卿等が貪議理なり。特小又大
 王乃倫言とあれ。孝道と小人望と小み。背が。其ハ我
 一生乃一大事。檀特雪山修行の阿已小究り。即位乃更もさる。更かれ
 小予が想え。大願十小して。其二を果さむ。然小大願満く。後々
 左も右もなき。先緩々更を議い。不倚不逆。御辞小緒。御達也
 按小相違し。強く勸め。事小不能願く。大王御孝道。臣下へ
 哀愍を。御願満む。御即位なり。むる。と辞を遺し。退散した
 リ。世尊何と。思召る。同連を以。淨飯王。奏させ。小若君難
 陀太子并小羅睺羅が。為小説る。法の。此方へ。母公。憍曇弥天
 人。其餘。好容。芙蓉。兩夫人。新宮。女官。由。聽。及。乃。命。り。告。さ

世の身不依く淨飯王より三臺乃后宮新宮女官難陀太子を先不立
天正寺へ詣りて妹惠比丘尼に羅睺羅を養ひて比丘尼を侍て付
く法座小着りて世尊二千五百人の阿羅漢を集へ自己獅子乃高座
小より説きし。其人より心有りて智を利根乃者といひ智有て
心を利根乃者といひ心有りて智有りて善人といひ心有りて智
有りて善人を愚人と号く此他三重病人といひ三世諸佛の慈願小漏を亦
慈願小可く大慈大慈小捨られし世を救ふ世を救ふ者あり是を
漏を結縁とて五重乃傳く。五法思教乃相傳と号を然も太
子及び吾が兒乃心成阿耨多羅三藐三菩提を闡く事有とて難陀太子
羅睺羅を養ひての御手を取て阿羅漢如意を以て虚空を三度摩たむ
む二人の太子獅子座を離し虚空小昇り形由見えたりと人衆人大
小驚た何と弁る事あり世尊其阿十大脚弟子と俱小淨雲を招下り

是も駕く虚空小昇り難陀羅睺羅の二太子小指示あり即今三妙
土の景勢をんを心不記し失念とて更勿とて東小向く指揮玉へ
も忽出雲中も金殿王樓高く出現七宝莊嚴端の微妙の音楽皮
え香風薫りし。諸天人快樂とて各々心清光景なり難陀太
子如來小對ひ是は何とす所小やと問ひ世尊曰是を幾心妙智と号く仁
政を布民を恤。三宝小皈依とて者彼所不生を夢緒般の快樂を結と
と教示。亦北小向く指揮玉へも忽出雲ひけ霹靂の如に音天地小震動
十六地獄出現と一地獄とて八の小地獄あり。其數都二百二十八地獄
牛頭馬頭乃阿房羅刹億萬の罪人を呵責とて形勢悉く見えたり。或
ハ紅蓮大紅蓮乃氷小閉られ或も焦熱大焦熱乃焰小啖ひ百態千般の責と
受る罪人の苦患刹那が間も止阿なれと二太子是をん小顔色を失ひ
戰栗し如來乃袖小執者皆も怖乃形勢是と何とす所小やと問ひ



世言曰是を方便化身と号け。悪政を絶一民を屠け或人を殺害一生類
 を屠殺一悪業を重一者罪乃輕重小送ひ彼所不墜落を怕て怖る一と
 教示一あふ羅睺羅者問むり許す乃罪人の中も彼猛火乃穴小陷り登
 んとこれと不脇叫んとこれと声出むも苦け小見えさる如何なる罪を造り
 一人也と問ふ世言曰渠ハ儀伯仙無見仙といひ二人乃道師なり予は母
 乃胎内小在し時馬將軍といふ者の託小應し予が母摩耶夫人を縛伏し出産の
 道を閉塞一罪小依る活ふが地獄小墜斯乃如く呵責を受ると二十余年之
 今ハ救ひ得るを乃しと如責を按し初念し小を無見儀伯の靈鬼徐る小火坑
 を這出地獄を離く漸く小近者大慈大徳南无本師本佛釈迦牟尼如来と
 唱合掌礼拜一撥消如く小を失小る二太子益如来乃方便力を敬ひるも
 あふ世言亦西小向し指揮玉へ忽ち雲間小極樂浄土出現し七宝の堂塔と
 由巍々然と光明十方を照し化佛報佛金光明乃臺より臺へ通ひ玉小相

好意詞也及これ二太子信心肝小銘是ハ如何なる靈所小のやと問ふ世言
 曰是を法性法身とて慈心修行の功を積一切衆生を救度する因水と
 生老病死を離き彼所へ往生するなり此を生前の行ひ小因り或は方便化
 身土乃苦患を受或は慈心妙智より快樂を受此理を考り心智の貴
 れと教示し如意を以て虚空を拂ひ去る即ち夢の覚る如く二人乃太子ハ
 一瞬乃回小世言羅漢と俱師子乃高座小降む小不思議といふ由疎なり
 斯く世言ハ富苗耶者小命と三眞土乃形勢を遂二小説せむ其後自己
 大慈報謝經を説む以五位七性五常七攝等精く説法し玉ひ而して仰るハ
 惣ども人の子と生る小四種の品あり一曰有本願乃子是因位なり二戒
 軀を過し其生る子三宝小結縁一三眞如の道廣く上求菩提乃功德
 を重ね又母とつとも小無上乃位小至るを緹り第二曰敬来乃子兩親小孝
 あり六親小礼深く外小五常を乱さず内小三宝を敬ひ供養するを緹

リ弟三小曰來憐乃子因位乃戒行を過りて犯法邪命なるをおま生れ出いて悪
 病ひやう小悩こなや二親ふたせ小歎こなをけ自然しぜんと貧窮ひんきやう乃身みとなり。短命たんめいなるをづり。弟四曰
 盗劫たうけつ乃子こ因位いんゐの惡報あくほう依よて生れ出いて我慢かまん心強こころく而親師友りやうしん乃命めい小こ從したがて
 善ぜんを惡あくと惡あくを好このむ終つひて刑戮けいりく乃身みをて骨肉こつにく葬まふ地ちあるをづり。予よ難陀
 太子たいしをんふ正ただしく敬來かうらい乃子ここれ此國ここのくに乃縁よを受うて十善じゆぜん乃位ゐ小即すなはち國家
 昌平しやうへい也なり萬民ばんみん安穩あんゑんとも也なり。緒卿よとも此意こゝろを悟さとり他たの人ひと小讓位じやうゐ乃決さ決
 有あるをともとも示しすを其見そのみ乃せう法ほふ畢まるを淨飯じやうはん王わう室しつ篇ぺんの裡うちより出御いあり
 實難じつなん有如來よ乃せう法ほふ也なり胸中むねちゆう乃雲霧うんむ霧む乃り今いま王位わうゐを難陀太子なんだたいし小
 之この纏まとるをとも勅ちやく乃せう難陀太子なんだたいし三冥王さんめいわうの景勢けいせうを眼がん前ぜん小見みとも怖おそく發はつ
 心こころせまめを思召おもひよ乃せう淨飯王じやうはんわう讓位じやうゐ乃ちやく命めい有あるを心こころ小從したが縁よを生いず是こゝろ他たの善ぜん
 をを乃を乃を世よ乃を早はやく其意そのいを知しるを曰いはす乃を御身ごみ三冥王さんめいわうを眼がん下げ乃を業わざ發はつ心こころ
 修行しゆぎやうを欲ほし乃を奇特きとくなれを乃を物もの就つて意こゝろ乃を動うごくを見み我われの迷まよひと号なづて

滅めつ乃心こころ乃を只ただ出家しゆけ乃望のぞを止とり帝位ていゐ小即すなはち仁政にせいを布ふむ乃を自みづから孝道かうたうを
 其功そのこう乃即すなはち三窟さんくつ乃結縁けつゑんとなり正覺しやうかくを得える期き有あるをとも鍊れん乃を乃を難陀太子なんだたいし佛智ぶつち乃端たん的てき乃感かん乃を遂つひ小承せう伏ふく乃を是こゝろ小依よて淨飯王じやうはんわう乃緒
 卿けい乃大だい乃悦えつひ如來にょらいを礼拜らいはい乃其日そのひ乃法座ほふざを退出しゆつ乃を乃を

世尊昇殿賜勅衣

淨飯王じやうはんわう乃世よ乃を説法せつぽうを聽き乃を難陀太子なんだたいし小讓位じやうゐ有あるを乃を睿慮ずいりよ
 定さだまり乃を乃を就つて乃を世よ乃を法德ほふとくを崇あがめ乃を乃を王宮わうきゆう小結むすぶ乃を供養くじやうせむ
 やとを切利せつり天正寺てんせいじ乃勅使ちやくしを立たて乃を阿羅漢あらかん小昇殿せうてんあるを乃を目
 を告つげ乃を世よ乃を慎ちん乃を勅命ちやくめいを承うけ乃を乃を十大弟子じゆだいしゆし十六羅漢じゆろくわん一千五百乃
 比丘びくしゆ一千乃比丘尼びくにを召具めいぐ乃を乃を兼かねて淨飯王じやうはんわう乃紹命せうめい乃乃を乃を上官じやうかん乃
 官殿くわんでん小参列さんれつ乃を如來にょらいを待まち乃乃を中官ちゆうかん乃城外じやうがい乃乃を迎接いんげつ乃乃を乃を乃を天正
 寺じ乃乃を迎毘羅城いんぴらじやう乃乃を乃を道路だうじゆを洒掃しやうばう乃乃を不淨ふじやうを拂はらふ乃乃を乃を乃を隠れ

なれを國中の貴賤老若其形相を拜んと香を焼花を捧ぐ路乃而
迎不群リ寸分の地をも残さず居りては茲小斛飯王乃太子提婆達
多と疾是を安く先亦懲むとせざる乃行道を妨んと惡く外道をうとむ
迦毘羅城へ入り闕をも空中の小天王子乃五十二乃薩垂百千乃天將如來
乃行道を守護しむむ迎りて近著得じ儲世さる千二百乃羅漢を二
行の分ちて先小進ませ二千乃比丘尼を二行の分ちて後小續く世さる八十
大徒弟十六羅漢小圍繞せられて中央を告む迎接の官人由二隊小分れ
て前後を致言同一管絃を奏し通行と路上の貴賤と如來乃形相を
拜しより感涙を流さる者あり斯く世さる師弟宮中へ入むを上官の面
々迎接し役乃玉座へ請ひよりぬ浄飯王ハ難陀太子を從て出脚の上世
尊の御對顔ありて忝内の疲を勞ひむふ如來由禮拜し帝息と深
く謝し其因月景城乃憍曇弥夫人より女官を以て奏問有るハ如來

の昇殿久しく難有御更ふは法衣を獻りて想きむらふる。睿慮を伺
ひよりいと告せざる。帝亦召法衣を進せらる更むは。其因ハ發心修行乃初三
檀特修行乃より。羅毅乃淨衣をさる。不淨乃色衣と脱捨むと安ハ如何
有るはと倫言ある。世さる安召言さる更むは。其因ハ發心修行乃初三
大耶行乃形かれ。錦衣玉飾ハ憚りなり。是ハ三寶供養乃信心をこめられ
功位乃法衣なれ。慎み頂戴しとるなり。曰帝理と思召其首女官へ
仰せされざるふと立面く憍曇弥夫人ハ斯と言上る。夫人歡喜斜かき金
色乃錦乃法衣蜀江乃錦の袈裟緝繡蘭蓼乃卧具等を女官小齋し
如來小獻りむ。是を布施乃初より。波梨舍那城乃好客夫人吃那瑠城乃芙
蓉夫人其他鹿野瞿陀弥乃二新宮及び宮中乃女官吾むくと三寶結縁乃為
かひく小色々の法衣袈裟衣卧具を諸羅漢緒比丘緒比丘尼小獻せり。世さ
是を見玉ハ徒弟小向く問む。法衣乃修行の更衣真行あり。真行衣あり。

法衣乃修行の更衣真行あり

法衣乃修行の更衣真行あり

真行衣衣衣衣衣衣衣衣因安不衣衣衣何舍利弗答曰水月自
然乃云無心心山乃岫岫岫岫岫如世世亦向山施主乃厚思喜悅
在真倒謝世鬼畜畜畜畜如功德崑崑崑如罪福無量乃
如来亦問曰世間出世乃道理を察する事奈何問連答曰無手人無舌
を叩く無舌却其科を絡る空魂舍利と世歡喜む世善哉々功位不
可説わり因縁不可思議なりと賞答し世今乃世僧徒小國王より勅衣を
賜ふ事是其権与かりと也斯々世宮中不在諸善萬行乃功德附屬の
説法をかり事更七日小國王殿を辭し切利天正寺へを回りむ
離婆多因魚失囚獄中

茲小尸羅摩摩國乃人離婆多より者あり天性穎悟總明なり仙法を學び
神通を得しが釈尊世小出むに諸國を周遊して一切衆生乃為小緒の經論と
説ふを聽字々深く佛法に皈依し仙道を捨て世々の徒弟となりたる
或曰如来離婆多小向曰你前生々人乃絶言を信し無実乃科を以て人を
困や惡因いよ滅せむ故卿へ回し阿羅漢の行をなす罪障を果し後予が
門小来れよと教示し事小離婆多佛命を領掌し尸羅摩國へ回し廣脇山
より深山小へ草蘆を結び穀食を断菓を喰ひ水を飲み阿羅漢の行を
なすこと一歳余小及びむ事奇特なりとこれ此心中小退屈を生じ身を
顧る小木蘭漆乃布衣垢付破れし是小依り法衣を脱て綴補ひ木連樹と
以木乃枝を伐り是を煎出し其煮汁を以て法服を染樹乃枝小掛し日小乾
り乾を亦染し日小乾數日如斯く稍戒行を怠りし是小此廣脇山乃林處
小牛殘鬻ぐ市有る小一日二頭乃黄牛如何し鼻緒解き山上遙小逃登
るれ小牛主心慌て其所より這所より尋登ふ一人乃比丘僧草萱折しける庵
小座し居り牛主喘々し者如何道人今這路へ頭乃黄牛奔来し
何方へ逃往しし知むと教むへ向離婆多素り牛乃来り残足は

或曰如来離婆多小向曰你前生々人乃絶言を信し無実乃科を以て人を
困や惡因いよ滅せむ故卿へ回し阿羅漢の行をなす罪障を果し後予が
門小来れよと教示し事小離婆多佛命を領掌し尸羅摩國へ回し廣脇山
より深山小へ草蘆を結び穀食を断菓を喰ひ水を飲み阿羅漢の行を
なすこと一歳余小及びむ事奇特なりとこれ此心中小退屈を生じ身を
顧る小木蘭漆乃布衣垢付破れし是小依り法衣を脱て綴補ひ木連樹と
以木乃枝を伐り是を煎出し其煮汁を以て法服を染樹乃枝小掛し日小乾
り乾を亦染し日小乾數日如斯く稍戒行を怠りし是小此廣脇山乃林處
小牛殘鬻ぐ市有る小一日二頭乃黄牛如何し鼻緒解き山上遙小逃登
るれ小牛主心慌て其所より這所より尋登ふ一人乃比丘僧草萱折しける庵
小座し居り牛主喘々し者如何道人今這路へ頭乃黄牛奔来し
何方へ逃往しし知むと教むへ向離婆多素り牛乃来り残足は

只去々々と各牛主大の訝り。這路をて他も逃往な路もあつた。その何
 方へ往くと四方を見廻すと遙乃樹上小黄牛乃皮と覺した物を曝した。其
 於て一点の疑心を生じ離婆多か盧乃辺をこれを一箇乃昔小血乃如き汁を湛
 亦傍の鋼刀あり其側小白骨の如た物を許す捨散せり牛主是を乃益
 疑ひ諸ハ這僧我が牛を殺し皮を剥ぎ樹上曝し且其肉を喰つるふどあつた
 と。再三再四牛乃行方を推問し止む離婆多其戒行の妨をなすと大い小
 怒り你匹夫先刺より我が不知と答る小猶志む一一大隻乃戒行を妨る何
 更ぞと厲声お叱れを牛主其勢ひ怖れ口残箱指で山を下り數多乃市人小向
 山中小我が牛を殺せし賊僧ありと告るふど市人們前後乃思慮わも及む。然
 ち搦捉て國王小附よと。衆人荷擔し一山の上北上り有無乃論小も及む。是
 離婆多を捉り縛りあが曳下り國王乃廳へ引出るふど國王離婆多を廳前
 小曳居させ你僧徒乃身と。何ぞ牛を盗み刺へ切害と其肉を喰つるど

と糾問ある離婆多曰貧道阿羅漢の戒行を修りて他を顧の違存。然ぞ敢
 て牛皮を剥ぎ増し牛を殺し肉を喫如た破戒無慚の事なれんや曾て跡形
 乃の經言なり願く大王明小察し貧道が罪を免むと陳謝せしむ國王
 敢て許さずと你已小牛の皮を剥ぎ樹上晒し血を絞り骨を捨てる證迹ある小
 猶安語を吐く陳ごらよと。獄吏小命し百杖鞭撃せ厳く獄中小囚に並り
 離婆多是より無失科小依り牢獄小繫る。更七年心中小如来の金言乃違
 ざら成感し身ハ桎梏小くされ獄中小在るも一心を廣脇山小通ひ阿羅漢の
 戒行を心せ。然る小或囚國王牢獄の辺を通れり小離婆多獄中小て歎
 て曰噫世も曾て我が因位の昔無実の科を以て人を困り罪業滅せと曰
 一が果し我量む牛主が經言の遭法衣を深き樹小乾しを牛の皮と云れ
 木連樹乃煎汁を牛血と。其者澤を牛骨とせし獄中小繫る。更已小七
 年終末に罪障消滅の期至るとと。獨言するを國王洩して哀憐を生し

衣と漆と離れ
禍を穢と図



前生の業よりく

離れ多無実の
阿責ふあ図



儲ハ渠実小牛を殺シ者ハあらざりたりと。遂ハ宰茂出テ捏措を許シ。法衣
袈裟等を賜フリた。離波多夫小悦ハ息を絶ス。戸羅漢國を立其頃世
ヲハ鉢利奈國ハ在リ法を親トシ之脚跡を慕ク其國ハ到リ。如來小拜謁
セ世多離波多夫を以テ你ハ已小過去乃罪障滅シたり。你ハ前生ハ鷓鴣國乃
大臣ナリ一人乃愛妻有リ小或河倉卒小眩暈乃疾を生テ絶死セ小入
乃女年弛著ク抱テ之左右ク生面シテ然所ハ大臣外より回リ来リ是
を見女年と愛妻と奸通セト心得女年を縛テ刑人トシ之刑人是女
年ハ無実乃罪を憐レ暗小助命去リ之ね大臣是を怒テ刑人を獄中ハ囚
ルルテ七年其後大臣三室小皈依シ慈愍心を生テ刑人乃科を宥シ獄を出
シク放ち之ね大臣ハ即ち你ハ前身受妻ハ黄牛乃前身女年ハ牛王ハ前身
刑人トシ戸羅漢國王乃前身ナリと親シク之ハ離波多深く慚愧シ益世多
天眼通を以テ戒行怠ラズ遂ハ阿羅漢の果を得たり

難陀王即位并浄飯王崩御

且説伽毘羅城ハ浄飯王世多の金言小因テ難陀太子小讓位アル事博
士小吉良辰を擇セ諸國乃小王及ビ百司百官を朝廷小聚テ讓位の儀
式先規乃如ク嚴重小備テ七寶七流乃筵を授与シ并出度即位の式トシ
之れ小國乃王トシ月卿雲客難陀王を拜賀シ皆萬歳を唱ヘ之れ小
依テ浄飯王ハ仙洞小移リ住セ小心穩小風月を翫ビ小多小樂ト極ツク
愁々生ズルナリ一朝夜寐乃脚不剛小臥小多脚悩日小増ク重クセ小
之れハ憍曇彌好容芙蓉乃三夫人トシ之更ナリ滿朝乃諸臣大ハ小普
ク四天下小名醫を需リ寄ク治療小肺肝を碎セ之れハ露をウリの功
驗をも奏セ之れハ三夫人難陀王乃御歎ク之ハ昼夜病床小侍病ハ衣
帯小解テ寢食を忘レ之ハあハ小群臣日々小頼メ之れ御容體を
見テ心小痛チ法皇乃令弟トシ甘露飯王白露飯王斛飯王等の并ハ

使節を弛脚悩乃報たを報とる小と甘露飯白露飯乃西王と淨飯王の
 脚悩とゆる太小發た取物もとるあまど伽毘羅城へ弛參らる只斛飯王乃ハ
 提婆達多が純言の依と奉りたり。偕も甘露白露乃西王伽毘羅城小
 弛著還小仙洞乃王殿へ侍候しむひれを淨飯王女官小扶起され病淋小整
 座玉西王小對し宜く朕又大王乃密位を嗣とり心を小中仁義を行ひ
 臣下亦忠直かれ國小逆敵なく天下安寧小と今日まぐ枕を崇山の安小
 置已小萬乘乃重位を嗣子小譲り難陀王も聰明睿智かれ治世朕が在位
 小の猶勝り今登霞ととも更小世小遺念なりとり小も只憾らハ朕が子釈
 及小孫羅睺羅阿難可難們を未期小見ざるのこり遺念なり。その今ハ何國
 小在く法を説むやせめて國乃名をばふまやと洞と俱小紹命ある白露
 飯王曰世も今王舎城者閣崑崙山小在く説法しむす承らる。這國より路を
 隔る更二千五百余里大王乃脚悩且夕小逼り小勅使を弛むやも往返數十日

を徑と恐らハ脚終焉小遭む小更難ん兼く如来乃説法小命終小臨で心
 顛倒し心錯乱するハ佛果乃妨なりと説むを願くハ世も師徒乃更を念と玉
 小と王鉢穩小弥陀如来乃引接を念と玉と練むを淨飯王龍顔小涙を
 洒び小朕邂逅得が魚上至るの法王如来を子とあが。過去乃福縁薄
 く命終乃期小臨く其法顔を見其妙經を聽更を得ざる更よとく猶依々
 恋々くと渴望乃念増む小阿小大聖世尊ハ王舎城乃靈鷲山著閣崑崙山
 在く説法をな居むひるが天眼通を以て淨飯王乃重病および渴望の念を
 知覚しむハ阿難伽難羅睺羅等小向く曰又大王脚悩且夕小迫り臨終小及
 你們小對面せん更を望むも。這王舎城と廣迦陀國とハ路を隔ると有五
 百里勅使を立む小其往返乃間小命終しむ入更を憂ひむり予一度大
 願を發し一切衆生有縁を度し無縁を勧き一人をも漏さざる小養食
 育高思乃又王の渴望を知らず。未期乃願を満しあまらざる人や。自余乃

羅漢ハ這山小留ヲ富留那ハ予小換テ説法一三如葉ハ魔障を防下と令一即阿
 阿難伽難羅睺羅月連舍利弗以下乃阿羅漢を後へ世々ハ阿薩如意ト以
 虚空を塵玉心忽ち五色乃淨雲降り雲中自出如来師弟の蓮花座
 有々小ぞ世々頻々羅漢と俱小蓮花上小坐一亦小唯見大光明輝た一瞬の
 間小飛行一伽毘羅城小著一城中乃人民俄小光明の輝を以て何更小やと孩
 丸空中を仰だんれを釈伽牟尼世々緒羅漢と俱小雲小駕して降臨なり一亦
 小ぞ眾人合掌禮拜一我佛如来御父大王御惱重今將小崩御小臨玉一早
 く龍顔小見へ玉へ云も果む皆地小仆て泣怒とら世々國人を諭して曰你
 們諸人深く歎く更なれ無常別離ハ人思乃常なり予疾又大王乃終焉及
 渴望一亦小を知り回來り一頃々仙洞乃殿中へ入一這河淨飯王ハ深宮乃
 玉牀小病卧玉以疼痛胸下小急迫て煩悶一更小人更を弁へ玉がりなる小忽
 ち金光玉體小映むと思召む病若女く怠る如く覺玉以目を開き玉心梅檀

乃如た香風御身を吹く愈胸をぐくくをせ亦小を左右乃后宮小向玉以
 病苦の為小身神惚乱一金光身小映し香風身を吹く一夜痛急る
 を覺一是何乃祥瑞なりやと問玉以然一后宮中女官の何更とも弁へぬを黙
 然一各各方所小日月光兩大臣伏然一參侍一大王乃聖願届た
 釈伽牟尼世々緒羅漢と俱小還幸なり玉一奏を難陀王三后宮乃御悦び
 ハあぐく其淨飯王睿はあぐ覺む病牀小起坐玉以是ハ絨々夢ゆハ非
 る疾々是へ緒せよと倫言ある兩大臣奉り玉とをさるち小早世緒弟子
 を後へ昇殿一玉以玉牀小向玉以禮拜一玉以法顔小脚泪を洒玉心憐曇弥好
 容芙蓉乃三后宮慶野瞿陀林の一新宮を以満堂乃女官難陀王緒臣下小
 至るまじ感涙長涙小各袖をを漫る淨飯王由歡喜の涙せれあ玉をす
 稍あり宣く朕老病小卧終焉且夕小迫るといふも王位ハ已小太子小饒リつ
 緒臣忠勤を及一四境昌平なれ心を勞する所なり志久あれ唯臨終小如

来乃一偈をばやまを本意を思ふ今如未及び羅睺羅阿難伽難其
乃阿羅漢相見する要を得ず。生前の願を充つ。仰り願ハ朕を由九品
蓮臺より接しむ。合掌して禮拜し。世より曰君仁澤を四天下に施し且
三宝に皈依し。清浄戒行を修む。後世必然天上に生を得無比の快樂を
受む。と何の疑ひもなかり。只睿慮静なり。一心に弥陀佛を祈念し。と
金色の臂を伸べ。御手を浄飯王の額の上に加へ撫む。と三度即ち
諸行無常 是生滅法 生滅々為 寂滅為樂
と四句の偈を唱ふ。浄飯王這偈をばやまひ。病苦悉く退れ。心神忽ち
快樂なり。と心禪定ふ。如く端坐合掌し。南無佛々々と三言唱へ。と三世
諸佛二十五の薩垂虚空に未降し。と以音楽を奏し。五彩の花を降し。持
小葦心妙智より引接し。瑞應を現し。と浄飯王音楽の音を用ひ。龍眼
を用ひ。虚空を睿覧あり。と歡喜踊躍し。と以忽ちと。睡が如く崩脚

一。阿難陀王より三后宮二新宮女官妹女月卿雲客號泣啼哭。と云ふこ
城中の音を聞き。と世を是を練り制し。と以骸を収め。七宝七重の棺
小綰し。と香を焼花を散り。と緒羅漢と俱に供養し。と一七日其後
玉棺を寶輦に納め。羅睺羅優婆梨阿難可羅寶輦乃四隅に後ひ
昇輿し。官人是を早舉げ。尊く釋尊紫磨黄金乃香炉を執
り。宝輦の前より阿難陀王甘露飯王白露飯王三后宮二新宮妙惠
比丘尼を。と三大臣月卿雲客般々乃官吏や。と列を正し。と供奉し。と
國中の人民老若男女。伽毘羅城より。切利天正寺ナリ。と路の上。左右に充
満し。とさながら赤子乃母を喪ふ如く。身を投伏泣叫ぶ声。境界と動く。と云
たり。斯く宝輦天正寺小着し。と夕陽山乃麓に香薪を積ぎ。玉棺を
置淨火をくけ。と茶毘し。と阿難陀王及び甘露白露兩王三后宮百司百
官。と火の漸々小熾小燃る。と火の聲を發して。啼泣あり。と世の人々

を練く曰盛衰不定の世のなりし王者とらむも久く現世も作しむ更なる能
 くと二度無常乃刀風不遭呼吸乃息断絶してハ山魏々たる形骸も忽ち小
 枯木乃如一人々今此火乃熾なる火乃熾たる怨やとも六慾乃切火ハ是よ
 リも猶熾ふく身を焦む更甚し故小萬更を抛く佛道不入承く生死
 乃若畏を離るると脱綸しむ程々茶毘畢れむ泣々聖骨を拾ひ
 黄金乃函小収り夕陽山なる大耶夫人の墳とをく埋葬しより其上小
 十三層の寶塔を建釋尊緒羅漢と俱小塔廟を供養しむるも
 正覺真正乃如来自己供養しむ更なれむ三世乃緒佛菩薩無も未降し
 妙花を降し音樂を奏して是を和しむ此功力ゆ浄飯大王の靈
 魁率天の生於受む久更疑なりと上下隨喜乃洞をぞ流したる

釋迦如来御一代圖會卷四畢

